

登録コード	L1432200	開講年度	2026				
担当教員	前田 豊			副担当			
授業科目	社会学基礎実習Ⅱ						
英文授業名	Basic Social Research Practicum I						
授業タイトル	デジタルデータの利活用						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限 月曜・5時限
講義室	人文3 1 3 演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以前カリ対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー			⇔	種々のデジタルデータを収集し、適切に分析することができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	研究活動に必要なデジタルデータへのアクセス方法を学習し、自身の関心に即した情報資源を入手することができるようになる。		
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	種々のデジタルデータを収集し、適切に分析することができるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	社会学では、関心のある社会現象の解明にあたり、対象の特性に応じた様々な形式のデータを扱う。本授業では、特にデータの二次利用に注目して、公開されているデジタルデータの効率的な収集、および形式に応じて適切に分析を行うための基本的な知識とスキルの涵養を目的とする。授業の前半では、特に量的調査データのデータアーカイブ・ポータルを紹介し、その利活用について実習形式で学習する。また、後半では、特にドキュメント分析を念頭に、さまざまなテキストデータへのアクセス手順と簡単なテキスト分析のやり方について学習する。						
授業計画	第1回：イントロダクション 第2回：RとR Studioの基本操作 第3回：RとR Studioの基本操作 第4回：データアーカイブ・ポータルを用いたデータ収集と分析 第5回：データアーカイブ・ポータルを用いたデータ収集と分析 第6回：データアーカイブ・ポータルを用いたデータ収集と分析 第7回：中間報告に向けたグループ作業 第8回：中間報告 第9回：テキストデータの分析方法 第10回：テキストデータの分析方法 第11回：テキストデータの分析方法 第12回：テキストデータの収集方法 第13回：テキストデータの収集方法 第14回：最終報告に向けたグループ作業 第15回 最終報告・授業アンケート 定期試験なし						
成績評価の方法	学期中の中間報告（50%）、および学期末の最終報告（50%）から総合的に判断する。						
成績評価の基準	2回の報告内容に基づき、実習内容を踏まえた正確な知識・スキル修得の程度から評価する。十分に満たしている場合は『卓越している』と評価し、いずれかの点で優れていると評価できる場合は、その程度に応じて『かなり上にある』『やや上にある』と評価する。総合的に見て一定の水準にある場合は『その水準にある』と評価する。						
事前事後学習の内容	本授業で用いるR Studioはコマンドベースのソフトであるため、初学者にとってはとっつきにくい部分もある。そのため、円滑な操作ができるように、主体的に操作方法について復習しておくこと。						
履修上の注意	「Rで学ぶ統計の基礎」を履修していることが望ましい。						
質問、相談への対応	オフィスアワー、およびメール（ymaeda076[at]shinshu-u.ac.jp）で質問、相談を受け付ける。オフィスアワーの日時は初回授業時に伝える。						
教科書	特に指定しない						
参考書	松村優哉ら, 2021, 『改訂2版 RユーザのためのRStudio[実践]入門～tidyverseによるモダンな分析フローの世界』技術評論社. Salganik,M.J., 2018, Bit by Bit, Princeton University Press. (=瀧川裕貴ら訳, 2019, 『ビット・バイ・ビット』有斐閣). ※他、適宜授業中に紹介する						